

# 麻疹(ましん)

麻疹は麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症であり、空気感染をする代表的疾患です。その感染力は極めて強く、免疫がない人は90%以上が発病するといわれます。

近年は1年に250人程度の感染報告があります。今回は、麻疹の流行の何が問題なのかを解説します。



## 麻疹発症の経過

カタル期	10日ほどの潜伏期後に38度程度の発熱が3日ほど続き、上気道炎症状が出る。この時期に口の粘膜にコプリック斑といわれる、白色小斑点がみられる。カタル期が最も感染力が強い。
発疹期	カタル期の発熱が一旦下がった後に、再び39度以上の高熱が出る。この時期に、頭頸部から発疹が出現し、全身に広がる。
回復期	3～4日続いた高熱が下がり、上気道症状が改善する。また、発疹も退色していく。

## 麻疹の合併症

麻疹は全身のリンパ組織で増殖するため、一過性に強く免疫機能を抑制します。このため、6%で肺炎の合併がみられます。特に乳児では、死亡例の60%が肺炎によるといわれます。

もう一つ重要な合併症が脳炎です。発症は0.1%と低いのですが、致死率は15%と高く、回復しても、25%の方に重い後遺症を残します。

## 麻疹の問題点

麻疹に対する治療薬は、現在もありません。したがって、ワクチン接種により発症を予防することが、最も効果的な対処法になります。麻疹ワクチンは、I期：12カ月以上～24カ月未満の間と、II期：小学校入学前の1年間の2回接種することになっており、I期97%、II期93%の接種率と高率です。しかし、ワクチンを打っても免疫がつかなかった子も含めると、5%程度は免疫が無いことになります。クラスに2人、1学年5クラスとして10人、6学年で60人と、学校全体では結構な数になります。

生後6カ月くらいまでは、母親からもらった免疫が守ってくれますが、6カ月以降はその免疫が低下していきます。I期が1歳からなのは、母親からの免疫が完全になくならないと、ワクチンを打っても、その免疫のために抗体が十分作られない可能性を考慮した結果です。そのため、6～12カ月は罹患しやすい危険な時期です。

そして、最大の問題が、青年のワクチン未接種者が多いことです。以前はワクチン接種率が低かったため、2008～2012年の5年間に、中学1年と高校3年を対象にワクチン接種をおこなったのですが、269万人も打っていません。現在23～28歳の方で、何年か前に大学で流行して問題となった世代です。(それ以前の方たちは、麻疹患者数が非常に多かったため、ほとんどが免疫を自然に獲得している)免疫のない青年が、免疫力の低い子供にうつして重症化させるのが、最も危惧される事態です。

当院職員に対して、麻疹抗体を測定したところ、2人が抗体を持っていませんでした。

これは、自分が思っていたよりも多かったため、驚きました。医療機関は麻疹ウイルス感染の危険があるので、すぐに麻疹ワクチン接種を行いました。

不安がある方は、2,530円で抗体測定をします(風疹と一緒にだと3,320円)ので、ご相談下さい。

